



第 85 回 在宅チーム医療栄養管理研究会 記録

- 日 時 : 平成 30 年 2 月 25 日(日) 14:00~17:00
- 場 所 : 東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス 3 階 1303 教室
- 参加人数: 43 名
- 司 会 : 村上奈央子

内容:

1、14:00~14:05 代表挨拶 塚田邦夫

2、14:05~15:35 『第 1 部』講演

「在宅でのがんの栄養管理とマギーズ東京の活動について」

演者 川口美喜子(大妻女子大学 家政学部教授 / 島根大学医学部特別協力研究員
/ がん病態栄養専門師)

がん患者の栄養リスクとして(特に悪液質がある場合)体重減少があげられる。これは生体内の代謝異常と食欲不振による摂取量の不足が原因である。体重減少はがん患者にしばしばみられる最初の兆候であるが栄養状態の低下により、QOL、ADL の低下が避けられない。と同時に副作用を増加し生存率を短縮することにも繋がりがかねない。栄養士として患者様の希望、状態を把握し QOL をどのように維持し高められるかお話いただいた。

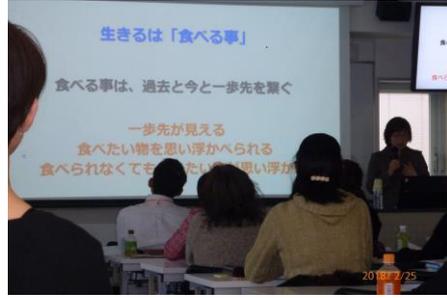
体重減少の対策は十分なたんぱく質、エネルギーの補給により改善が可能である。その予防として栄養状態の悪化の早期発見、やせる前の対応がとても重要である。栄養士は単なる栄養管理でなくドクターと同じように、患者様に寄り添うような食事指導を行えるようになることが大切である。しかし緩和ケアチームのある病院のうち、管理栄養士がチームに参画しているのは約半数に過ぎないのが現状となっている。

新年度から新たに緩和ケア診療加算等の条件の見直しとして「個別栄養食事管理加算(70 点)」が新設される予定である。

がん患者と家族の目標達成のための具体的な食事の提案、あるいは食事が摂取できないことによる家族と患者様の苦悩を軽減できるためのアドバイス。治療により「食べられない」「食べたくない」「おいしくない」が食べる喜び「食べられた」「食べたい」「おいしい」と思うことで、治療を継続する体力気力の向上に繋がるよう関わる取り組みの紹介。その他イギリスの「マギーズキャンサーケアリングセンター」を参考に開設された『暮らしの保健室(新宿区都営住宅戸山ハイツ)』…住民の暮らしに寄り添う地域の保健室の紹介があった。またがんになった人とその家族、友人などが気軽に訪れて、安心して話せる場所をモットーとする『マギーズ東京』の紹介もされた。

人は口からダメになる。だけど口から再生もする。健口長寿のカギは口=命の入り口の言葉が印象的でした。





3、15:00～15:55 業者情報提供および休憩

株式会社ヘルシーネットワーク、 株式会社天竜



4、15:55～16:55 『第2部』講演

「グリーフサポートせたがやの活動について」

演者 加治陽子(一般社団法人グリーフサポートせたがや)

米国オレゴン州にある「ダギーセンター」という死別を体験した子供たちが集い、遊びやおしゃべりと通じて、悲しみや辛い気持ちに向き合うことのできる家をモデルに、グリーフと向き合うために安心、安全な場所を作り出す場所として「グリーフサポートせたがや」は立ち上げられた。グリーフは死別喪失だけでなく、離別、暴力被害、紛争や自然災害による被災、失業、就職難、貧困、いじめ、差別、非婚や不妊などへの社会の不寛容など、直接、間接的な要因に起因するすべてをグリーフと捉えている。グリーフと向き合いグリーフを抱きながら歩めるようにサポートしていく組織での活動を紹介して頂いた。



5. 16:55 終了挨拶

6. 終了後 懇親会

※次回予定: 4月22(日) 13:30～17:00

第85回担当 影山、村上、宮本、佐藤(文責)